

令和4年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

新春！親子で書道体験～日本の正月文化も楽しもう！～

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

日本の伝統文化の一つである「書」活動について、青少年の文化体験活動の裾野をより広げるとともに、「書」自体を楽しむ活動を通して、「書」に親しみをもつ。また、書道以外にもお正月の昔遊びを通して日本の伝統文化に触れる機会を設ける。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和5年1月7日（土）～1月8日（日）1泊2日

(2) 参加者

① 募集対象・人数

小学生とその家族・10家族30人程度

② 参加人数

9家族27人

(3) 講師等

1日目 岡山県立矢掛高等学校書道部

(4) 企画・運営のポイント

- ① 岡山県立矢掛高等学校書道部に講師として来ていただき、書道パフォーマンスを鑑賞して、書初め指導を受けることで、書道への関心を深めてもらうようにした。
- ② 1日目に凧作り用の書初めを作成し、それを活用して、2日目の凧作りに使用することで、2日間の活動の流れを作った。
- ③ 凧作り、凧揚げでは事前に担当で、どの形が飛びやすいか、竹ひご、凧糸などの準備物ほどの程度準備すれば作成が簡単になるかなど様々なパターンを試作し、活動がスムーズに行えるようにした。
- ④ お正月遊びの活動では福笑い、かるた・百人一首、こま回し、けん玉の4つのブースを作り、活動時間中に時間を区切ることなく、自分の興味のあるブースに参加できるようにした。
- ⑤ 開催時期の早朝は、道路の凍結の可能性が予測されたため、開始時間を午前中ではなく、午後からにすることで、冬用タイヤを装着していない参加者も安心して来やすくなるようにした。

3. 活動の内容等

(1) 日程

1月7日(土)		1月8日(日)	
13:30	J R岡山駅西口バス送迎(希望者)	6:45	起床・清掃
14:30	受付	7:30	宿泊室点検
15:00	開会式	8:00	朝食
15:30	書道パフォーマンス 書初め体験	9:00	凧作り 凧揚げ
17:30	休憩・寝具説明	12:00	昼食
18:00	夕食	13:00	閉会式
19:00	お正月遊び	13:30	解散 J R岡山駅西口バス送迎(希望者)
20:00	入浴		
21:00	就寝準備		
22:00	就寝		

(2) 活動の状況



【書道パフォーマンス】



【書初め①】



【書初め②】



【お正月遊び①】



【お正月遊び②】



【凧作り】



【凧揚げ①】



【凧揚げ②】

4. 成果・課題

(1) 満足度

- ① 満足：100%

(2) 参加者の声

- ① 書道パフォーマンスがとても印象に残りました。その後に実際にお姉さんたちに習字を指導してもらえたのも良かったです。
- ② タイトルにある書道はもちろん、お正月遊びや凧作り、凧揚げを通じて良い経験になりました。特に凧は滅多に揚げることがないので、良かったです。
- ③ 小3の娘が担任の先生にチラシをもらってきて、興味を持ったので申し込みました。貴重な体験をたくさんさせていただき感激しました。用意など至れり尽くせり、スタッフの皆さまに優しくしていただき本当にありがとうございました。
- ④ 習字が小学校でもあまりやっていないので良かったです。また、大人も楽しむことができました。
- ⑤ とても楽しくて、またぜひ来年も企画を行って欲しいです。

(3) 成果

- ① 岡山県立矢掛高等学校書道部に講師として来ていただき、書道パフォーマンスを鑑賞して、書初め指導では自分たちの書きたい文字をその場で書いてもらって指導を受けることができ、参加者から好評を得ることができた。
- ② 書道以外にも、福笑いやかるたなどのお正月遊びや、凧作り・凧揚げを体験することによって様々な日本のお正月文化に触れることができた。
- ③ 自分で凧を作って揚げる体験をしたことがない児童が多く、屋外で電線や家などを気にすることなく存分に凧揚げを楽しんでもらうことができた。

(4) 今後の課題

- ① 凧作りでは時間内に作成を完了できるか不安であったため、事前に担当職員たちで凧の形を切ったり、竹ひごや凧糸などを適切な長さで用意したりするなどの準備をした。その結果、時間通りにスムーズに活動を進めることができた。ただし、事前準備の時間がかかりかかったため、来年度はどこまで準備するか、参加者にどこまでやってもらうかを検討する必要がある。
- ② 昨年度参加者集めに苦労したことから、今年度は募集の対象を小学生全学年に広げた。学校で書道をまだ習っていない低学年の児童も参加したが、保護者が付

き添っていたため楽しんでいる様子が見られた。ただし、書道道具を持っていない、基礎が身に付いていないなどの問題点もあるので対象の年齢設定を再考する必要がある。

- ③ 事業実施日が1月7日であり、日本の正月をテーマにしたイベントであるならば、食事に七草がゆを取り入れることも考えられた。体験活動だけでなく食事の面からも日本の正月文化にアプローチすることを検討したい。

担当：企画指導専門職付 小城 洋介